

九. 庄内の神社や寺はいつ建てられたのか

棕橋総社が棕橋荘の総社であることは先に書きましたが、荘内の各村は漸時氏地を離れ、村社を建てました。棕橋総社が何時建てられたのかをしらべましても開基年歴は不詳となっています。ただ、棕橋総社が後奈良天皇の勅願所になっていることを考えますと、後奈良天皇の御世(十六世紀初～中旬)以前に建てられたことが確実だと考えるのですが、この棕橋総社も大正五年に火災に遭い全焼し、大正七年に再建されています。



庄内神社

庄内幸町には大正元年に建てられた庄内神社(写真)があります。この神社は旧村落七社を合祀し、建設されたものです。その七社とは、島江稻荷神社、島田稻荷神社、庄本新家稻荷神社、洲到止(すどうし)八幡神社、牛立八幡神社、野田八幡神社、菰江(こもえ)稜威(いつい)天王社を指します。当初は鳥居や常夜灯、狛犬等石造建築物や拝殿、本殿、社務所等木造建築物を移築したといいますが、後年、現在大島町のある洲到止八幡宮が庄内神社の末社として再建されました。

庄内には現在、八つの寺院がありますが、日蓮宗の新福寺と禅宗の南昌禅寺を除く六つの寺はすべて浄土真宗に属しています。その八つの寺の建立された年は「大阪府全志」に次のように書かれています。

善徳寺 三屋村 文明十三年(一四八一年)

明福寺 三屋村 天文五年(一五三六年)

正業寺 牛立村 享禄四年(一五三一年)

最勝寺 洲到止村 文禄元年(一五九二年)

庄本村の光國寺は最初、真言宗の寺でしたが、文明五年(一四七三年)に浄土真宗寺院に転宗しています。また、島田村の源福寺の建立された年は不明になっていますが、迫間大嶋家の菩提寺になっていることから見て、江戸時代の初めに建てられたのではないのでしょうか。庄本村にある新福寺の創建年月や再建年月については先にふれましたが、野田村にある南昌禅寺は野田村の八幡神社の宮守の寺として正保二年(一六四五年)に建てられました。